

世界に響け, CSJ ジャーナル

欧文誌・速報誌編集委員会

日本化学会 (CSJ) が発刊する論文誌 Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) と Chemistry Letters (ChemLett) を、より一層世界に広げようという活動が続いている。2024 年 1 月より両誌は Oxford University Press (OUP) と出版協業を開始した。これによって世界の 1800 以上の研究機関でこれらを閲覧できるようになった。これは 2023 年までの 5 倍以上に当たる。また 2024 年 1 月から両誌のウェブサイトも更新された。その特徴の 1 つは、それぞれの論文の右横に CITATIONS, VIEWS, ALTMETRIC と、その下に More metrics information があることだ (図 1)。これは Chem. Lett. **2010**, 39, 1118. の例である。その中の CITATIONS をクリックすると、この場合には「This publication in Chemistry Letters has been cited 1,073 times. 7% of its citations have been received in the past two years. Compared to other publications in the same field, this publication is extremely highly cited and has received approximately 125 times more citations than average.」とコメントされている。また More metrics information をクリックすると、ページを見た回数とダウンロード数が表示される。本公開された論文の場合、注目度の高い論文は VIEWS が短期間にビューンと伸びる。これらは自分自身の論文の公開後の動向を知る便利なツールである。

出版協業とは独立して、両誌は科学研

究費「国際情報発信強化」の支援を受けている。これを基盤に国内外で開催される学会でのプロモーションを行っている。2024 年の欧米でのプロモーションは OUP がスタッフを派遣し、ニューオリンズ開催 ACS Spring (3 月)、プラハ開催 European Congress of Applied Chemistry (5 月)、ミュンヘン開催 GDCh Conference on Inorganic Chemistry Munich (9 月) ではブース展示を行った (写真 1)。加えて OUP の中国支部が、天津市開催 The 14th International Conference on Heteroatom Chemistry (7 月) でブース展示を行った。またこのうちミュンヘンでのコンファレンスでは、優秀な学生講演者に対して BCSJ Award および Chemistry Letters Young Researcher Award を授与することもできた。

2025 年、前年と同様に両誌のプロモーションの機会を探る中、優秀講演に対する賞の提供を増やせば、発表者自身や指導教員との接点を、より多く持つことができるということから、学会の主催者とやりとりをしてきた。その結果、ミラツォ開催 26th International Symposium on Photochemistry and Photophysics of Coordination Compounds では、ウェブサイトへの両誌のパネル掲載、米国化学会、王立化学会とともに日本化学会からも Best Poster Awards を 2 名に授与することができた。さらにバンコク開催の 20th Asian Chemical Congress では、Welcome Ceremony で両誌を披露してもらうとともに (写真 2 左)、ガラス製の感謝状 (写真 2 右) もいただいた。1000 名ほどが集まった会議では、翌日から口頭発表の合間にポスター発表



写真 1



写真 2



写真 3

が連日開催されていた。後者は 400 名程度で、その中から受賞候補者が選ばれた。閉会式で開催された授与式に登壇した受賞者は 16 名で、そのうちトップ 4 名に BCSJ Award および Chemistry Letters Young Researcher Award が授与された (写真 3)。それぞれインド、タイ、ベトナム、日本から参加した学生たちであった。

かつては学術雑誌に研究成果を出すことはほぼ縁のなかった地域でも今では、研究成果を掲載した雑誌のランキングを人事評価に反映させる国もある。一方で、新たな商業誌が拡大し、独自性がほとんどない成果でも掲載できる論文誌も複数発刊されている。その中、それぞれ 100 年、50 年以上の歴史を持ち、先人たちが築いてきた化学財産の宝庫である BCSJ 誌と ChemLett 誌を、これまで以上に新たな成果を発信できる雑誌へと躍進させたい。読者の皆様からのご指導、ご鞭撻、さらには苦情もお待ちしております。

E-mail: murai@chemistry.or.jp

{CSJ ジャーナル専任編集委員
村井利昭 (岐阜大学)}

© 2025 The Chemical Society of Japan



図 1